

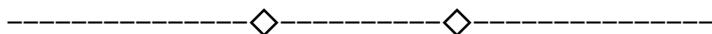
第12回日本プロオーケストラファンクラブ協議会総会 札幌総会分科会要録

総会での各団体交流の場が分科会形式になったのは、山形総会（第8回）からと記憶しております。貴重な時間を有意義に過ごす方法としては、成果があったのではと思いました。またそれにより、それぞれの団体の課題もより明確になってきたのではないかと思います。

今年は、前年度までの過程を踏まえ、下記の6つの分科会を設定しました。

各団体は、ファン層を拡大するために、また会員拡大を目標に様々な活動をそれぞれ工夫しながら実施しています。その活動の一つひとつに焦点をあて、活動の方法や仕組みを交流し合うことで、自分たちの活動のヒントにして生かすことができるのではないかと考えました。

以下に、各分科会での交流の様子を簡単にご報告します。



アドバイザー：上田 文雄、西川 吉武、定政みち子
マーク：◎=まとめ発表者、○=司会者、◇=書記

Aグループ（セミナーやコンサート）

参加者：長島 栄一（SPC）、田上萬里子（SPC）、小野 善平（群響）
◎篠原 敏修（東京）、山内満沙代（名古屋）、○上野 文博（札幌）
◇神 秀夫（札幌）、有田 宏（札幌）

まず話題になったのは、サロン、セミナー、パーティ、トークなどの演奏者や講師の謝礼が安い事です。スポンサーの付いているところ以外は、悩ましい問題。

各団体がそれぞれ行っているセミナー、サロン、カフェなど、名前は違うが、会員と楽員を身近に感じ、楽員には会の存在を知らせることになっている。楽員との係わりでは、新人の楽員の方が、食い付きが良く、早く出たいという人もいるとのこと。ファンクラブにとっても、新人にその存在を認知させることになるので良いことだと思う。

セミナー、サロン、カフェなどを会員だけを対象にしているところと、会員以外も対象にしているところとそれぞれある。

ファンクラブと事務局との係わり方は、それぞれの会の立ち上がりの違いなどで、かなりの差があると思う。



Bグループ（会報誌）

参加者：高橋 望（SPC）、前田 直美（SPC）、◎石守 晃（群響）

村山 利勝（群響）、山田ちひろ（名古屋）、井上 明子（札幌）
◇中居志津子（札幌）、○塚田 総（札幌）

会報誌では、アイデア、デザイン、カラー、予算、担当者について話し合いがされました。アイデアとしては、定期会員に会場で「ひとこと」をお願いした例と、投稿が少しずつ増え、楽員さんもそれを気にしてくれるようになった例がありました。

予算を抑えることについては、協力してくださる印刷会社による援助や、スポンサーをお願いする例もありました。

スタッフや会員の「Web世代」と「紙世代」についても話題になりました。若い方に会員になってもらうためにはネットの発信が欠かせないのではないか、会報誌をWeb化するにはセキュリティや発信の仕方など課題があること、「紙世代」にはプリントアウトをして発送することも大事であることなどを話し合いました。



会報

札幌くらぶ

2018年7月 第83号

編集・発行/札幌くらぶ 〒064-0931 札幌市中央区中島公園 1-15 札幌事務局気付
ホームページ <http://sakkyoclub.net/sakkyoclub/>

2018年度

札幌くらぶ総会の報告

去る6月23日(土)第610回札幌定期演奏会終了後に、札幌コンサートホールキタラ2階会議室において、2018年度「第23回札幌くらぶ総会」が開催されました。

開会に先だって、進行役の定政みち子事務局次長から、当日の出席者が41名、出席できずに委任状を提出した会員が74名であることが報告されました。

開会の挨拶は、急遽欠席となつた上田文雄会長に代わって、鈴木美保副会長が会長からの挨拶文を代読するという形で行われました。



会長の挨拶文を代読する
鈴木副会長

札幌くらぶ上田文雄会長
挨拶文

本日、2018年度の札幌くらぶ総会の開催にあたり、急遽欠席することについて申し訳なく思います。本日、お集まりの札幌くらぶの会員の皆さん、そして日々の運営について活動されているスタッフの皆さん、本当にありがとうございます。

また、3年間札幌交響楽団専務理事として活躍された永井さんにもお世話になり、ありがとうございました。新専務となられた鳥居さんには、札幌くらぶをよろしくお願ひいたします。これからは札幌文化芸術劇場誕生を機に、札幌もキタラだけではなく演奏形態も大きく変化すると思えます。さらなる成長を期待しております。私たち札幌くらぶは、会員数約400名の、札幌交響楽団の応援団であります。道民や札幌市民に対してクラシック音楽を隔々まで届ける活動を大切にして、楽譜支援やファン拡大や次世代を育てるといった札幌くらぶの事業を、新

専務のご協力のもと、ともに進めていきたいと考えます。

つづいて、札幌の新専務理事に着任された鳥居和比徒氏からこれからもご協力をお願いしたいとのご挨拶がありました。

その後、議事に入り、2017年度の活動報告と2018年度の活動計画について、西川吉武副会長から一括して説明が行われました。引き続き会計決算報告および監査報告が行なわれ、その後2018年度の予算案が提案されました。これらの議案については若干の質疑を経た後、参加者全員により一括承認されました。



議案を説明する
西川副会長



札幌新専務理事 鳥居和比徒氏

いので、もっと広く宣伝してはどうだろうか?と意見があり、現在は会場として豊平館を使用しており、80名の収容が限度となっていること、今後は市民交流プラザの活用などを考えることなどをお伝えしました。



総会議案の詳細については折り込みの「総会報告」を参照してください。

意見交換の際に出席者から、札幌くらぶサロンは内容がい

にて2018年度が無事発足しました。

約80分の審議を経たあと、武藤義典副会長の閉会宣言によって総会は終了しました。



contents

- レポート ふれあい懇談会
ありがとうヴェロさん、安田さん ようこそ鈴木さん……………2
- 鈴木雄大さんインタビュー
仙台フィル新入団クラリネット奏者……………4
- 第18回 SPC大賞 ……………6

会員リレーエッセイ 「仙台フィルとわたし」

小さい頃ピアノは習っていたし、母もよくレコードを掛けていたので、私の育った環境に確かにクラシックはあった。仙フィルの存在も判っていたし、宮フィル時代に聴いた事もあった。だが、私が自分で積極的にお金を払ってコンサートへ出掛ける程の事はなかった。そのきっかけになったのが、第1回の仙台国際音楽コンクール (SIMC) だった。

その頃の宮城は、同年に国体も行われ、翌年にはサッカー・ワールドカップも控えてイベント続き。私はあちこちでボランティアをし、SIMC もその内の1つだった。出場者のサポートをする中で、何度も仙フィルの音に触れた。選者が進むにつれ、出場者の演奏熱も上がっていく様に感じられた。

会員番号572番 成毛 祥代

そして仙フィルの演奏も…!その頃の仙フィルと云えば、外山先生に梅田先生の時代。コンクール直後の仙フィルの定期に行ってみた。ソリストが西江さんと原田さんだったー
こうしてコンクールの熱冷めやらぬまま、ミーハーの私は上手く取り込まれて今日に至る。きちんと勉強した訳ではないので未だよく解りもせず聞き流している様なところもあるが、回数だけは重ねてきた。遠くまで出掛けなくとも近くで素晴らしい音に触れる事ができるのが、地元にあるプロオーケの最大の魅力だ。「おらほのオケ」仙フィルに、これからもずっとずっと頑張りたいと思っている。

EVENT

SPCおもしろセミナーへのお誘い

仙台フィルハーモニークラブ (SPC) が毎年お届けする恒例のおもしろセミナー! お話や演奏を通じて、オーケストラがより一層身近に感じられるようになります。出演の仙台フィルホルン奏者の溝根伸吾さんより、メッセージ!! ♪♪♪♩♩♩

『10/28の「おもしろセミナー」は、その名も"ZONE for HORN"(ゾーン・フォー・ホーン)!! モーツァルトや R. シュトラウスの名曲と共に、トークを交えホルンとその音楽の魅力に迫ります。ナチュラルホルンあり、委嘱新作あり、当日お楽しみ曲あり、さらにはストーリー仕立ての選曲ありの盛り沢山の内容です! 皆さまのお越しを心よりお待ちしております!』



ZONE for HORN

～ホルンが誘う魅惑の“領域”～

ホルン演奏とお話：仙台フィルハーモニー管弦楽団ホルン奏者
 溝根伸吾 Singo MIZONE
 ピアノ：菅原望 Nozomu SUGAWARA

プログラム ホルン協奏曲第一番より第一章 (W.A.モーツァルト) ※
※ナチュラルホルンによる演奏

アンダンテ (R.シュトラウス)
 主題と変奏 (F.シュトラウス)
 他

日時 2018年10月28日 (日) 13:30開場 14:00開演

会場 市民活動シアター
 (仙台市市民活動サポートセンター-B1F 地下鉄南北線 広瀬通り駅 西5番出口すぐ)

チケット ヤマハ仙台店、定期演奏会SPC受付にて販売中
 全席自由
 一般：2,000円 SPC会員：1,000円 高校生以下：500円

お問い合わせ 仙台フィルハーモニークラブ TEL:090-6223-6203

制作協力：メディアデザイン

世界一権威のない音楽賞

第19回
 SPC大賞
 投票用紙

SPC大賞とは…? 仙台フィルの演奏を聴いた一般聴衆の投票のみで決まる、このうえなく民主的な音楽賞です。「この曲知っている!」「難しくわからない。」「この演奏、なぜか心にしみる～」演奏者が好みだから♡どんな理由でもOKです。あなたの一票が大賞を決めます。仙台フィルの演奏を評価して、仙台フィルにエールをおくりま賞!

#ひとことコメント♪

(仙台フィルファンクラブ・レター、会報に掲載いたします)

REVIEW

「戸田博美コンサート」

8月6日/ジャズミーブルース・ノラ

ハイドンのトランペット協奏曲で始まった戸田博美さんのコンサート。

この曲がきっかけとなったピアノ共演のYoko Yamadaさんとの出会いや、タイトル副題の「感謝の気持ちを込めて」「約束」についてのエピソードなど、丁寧な語り交えながらの心暖まるコンサートでした。広島出身の戸田さんの選んだ2曲目はカッチーニのアヴェ・マリア。8月6日は原爆投下の日、そして西日本豪雨の被災者への祈りを込めたその美しい響きに深く心を打たれました。魅力的な選曲、美しいアンサンブル、お二人の想いに感動しながら、楽しいひと時を過ごしました。



(S.W)

SPC大賞 #ひとことコメント

第320回定期演奏会 2018年7月13,14日

指揮：リュウ・シャオチャ

ピアノ：キム・ヒョンジュン

レスピーギ：組曲「鳥」

モーツァルト：ピアノ協奏曲第9番 変ホ長調 K.271「ジュノム」

シベリウス：交響曲第2番 二長調 作品43

セレクション

レスピーギは典雅な響きで、とても面白く聴きました。ピアノのキム氏の急速なパッセージはクリアでとても魅力的でした。シベリウスの第2交響曲が熱演でとても感動的でした。

21世紀のモーツァルト?近代的で勢いがあるけれど、もっと一音一音にピアノも繊細になってほしい。ヒョンジュンちゃんにはモーツァルトは合わないね。コンクールのブラムスは合っていたけれど、ま、私観ですが。

すべてすばらしい!!名演だった!!とくにティンパニーとコントラバスが秀逸!!

経歴にミュンヘンでチェリ(チェリビダッケ)の代役をしたと書いてあったが、シベ2でテンポを遅くして観客に曲の内容を理解させようとするかのような所は、ちょっとチェリっぽかった。

指揮者とオケのコミュニケーションがしっくりいってないと感じた。そのためか全体の音作りに統一感を感じないのだ(個々の演奏技術は素晴らしいのだが)。本当に指揮者とオケが一体になった時の高揚感はこのものではない。

いただいたコメントの一部を掲載いたしました。コメントの全文は会報でご覧いただけます。

第321回定期演奏会 2018年9月14日(金)・15日(土)

指揮：鈴木 優人

A:大満足 B:満足 C:まあまあ D:不満 E:大不満

作曲者名	曲名	A~E評価
バッハ/シエーンベルク	前奏曲とフーガ変ホ長調BWV552「聖アン」	
バッハ/ウェーベルン	6声のリチェルカーレ(「音楽のさざげもの」から)	
ラヴェル	組曲「クーブランの墓」	
メンデルスゾーン	交響曲第5番 二長調 作品107「宗教改革」	

・A~Eでご評価のうえ、SPC受付の投票箱にお入れください。
 受付には予備のファンクラブ・レターと投票用紙がございますのでご利用いただけます。

・メール、郵便でも受け付けております。 spc.admirer@gmail.com
 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3仙台市市民活動サポートセンターレターケース90

アフィニス 夏の音楽祭 2018山形

Affinis
Music
Festival

山形
響
ファン
クラブ
ブレター

「アフィニス夏の音楽祭」は、公益財団法人アフィニス文化財団が主催する、国内プロオーケストラ・メンバーのためのセミナー音楽祭。全国のプロオーケストラからの“参加者”と世界一流オーケストラなどで活躍している“招聘演奏家”が一堂に集い、「セミナー」「コンサート」「音楽交流プログラム」の3つのプログラムに取り組みます。(アフィニス公式HPから)

2018
8/19~26
YAMAGATA

2010年から隔年で、山形において開催されてきた「アフィニス夏の音楽祭」5度目を迎える今年は、山形が開催地となる最後の年になります。

最初に山形で開催されたとき、世界最高級の実力者や参加メンバーのひたむきな演奏を間近に聴いて、新鮮な感動を覚えたことを思い起こしました。以来、2年ごとの大きな楽しみとなりました。

山響は、この音楽祭において、ホストオーケストラとして深く運営にかかわっています。山響ファンクラブとしても、すこしでも華やかに音楽祭が盛り上がるよう、観客として多くの催しに触れて、山形最後のパフォーマンスに盛大な拍手を送りましょう。

公開セミナー

8月19日(日)~22日(水)
メイン会場 山形まなび館

室内楽演奏会

8月22日(水) 19:00 開演 文翔館・議場ホール

- ・ドヴォルザーク ピアノ五重奏曲 イ長調 Op. 81 B. 155
- ・モーツァルト ディヴェルティメント第9番 変ロ長調 K. 240
- ・シューベルト 八重奏曲 ヘ長調 Op. 166 D803

8月23日(木) 19:00 開演 文翔館・議場ホール

- ・C. クロイツァー 七重奏曲 変ホ長調 Op. 62
- ・バーンスタイン ダンス組曲
- ・メンデルスゾーン 弦楽八重奏曲 変ホ長調 Op. 20
- ・プロコフィエフ 交響曲 第1番 二長調 Op. 25 「古典交響曲」

平成30年7月号
KV3 (かわら版 第3号)

古典交響曲の超絶技!



合同オーケストラ演奏会

山形交響楽団

& アフィニス祝祭管弦楽団

8月26日(日) 16:00 開演 山形テルサ

- ・R. シュトラウス 交響詩「ドン・ファン」Op. 20
指揮: 秋山和慶 コンサートマスター: ヘンリック・ホッホシルト
- ・プロコフィエフ 交響曲 第1番 二長調 Op. 25 「古典交響曲」
コンサートマスター(弾きぶり): 川崎洋介
- ・プロコフィエフ 組曲「ロメオとジュリエット」Op. 64(抜粋)
指揮: 秋山和慶 コンサートマスター: 川崎 洋介

音楽祭メンバーからの「音楽の贈り物」

天衣無縫な「うきうきわくわく」感

8月25日(日) やまぎんホール (要 事前申込)

- ◎あいうえ音楽教室 13:00~
- ◎あいうえオーケストラ 15:00 開演
お子様から大人の方まで どなたでも楽しめるコンサート

◆アフィニス夏の音楽祭 プレイベント もう始まっています!

- ・キックオフコンサート 6月1日
- ・出張PRコンサート 6月30日
- ・街かどコンサート 6月28日 山形市役所
- ・フレ・コンサート サマーナイト・オーケストラ
7月15日 霞城セントラル 7月26日 19:00 開演 文翔館 議場ホール
- 7月21日 山形まなび館
- 7月22日 富岡本店

どれもこれも魅力的!!!
いかなくちゃ!!!

第90号

2018.9.1



発行 群響ファンズ(群響を応援する県民の会) 〒370-0828 高崎市宮元町247 TEL.FAX.027-324-1089
mail xdjjs542@ybb.ne.jp

前期シーズン — 好評のうちに終了

5月の定期演奏会は19日(土)に開かれました。指揮者にはお馴染みの井上道義氏が登場。井上氏らしいこだわりの作品が並びました。前半はショスタコーヴィチの作品。小編成のオーケストラによるバレエ組曲「黄金時代」に始まり、若きショスタコーヴィチの作品で、各セクションのソロも光る交響曲第1番と、軽妙洒脱な2つの作品が披露されました。

後半は生誕100周年を迎えるバーンスタインの作品。まず、ピアノの福間洸太郎氏を迎えて交響曲第2番「不安の時代」が演奏されました。最後の「ウエストサイドストーリーから『シンフォニックダンス』」では、井上氏の年齢を感じさせないエネルギーが炸裂。オーケストラメンバーの「マンボ!」の声も高らかに、楽しくコンサートの幕が降ろされました。



翌月6月17日(日)の定期演奏会は、大友直人音楽監督の指揮によるブラームスのみのプログラムで、前半は名曲ピアノ協奏曲第2番。イスラエル出身のイノン・バルナタン氏は、オーケストラとの一体感を保ちながら、この壮大な作品を豊かな表現力でダイナミックに演奏しました。

この日のメインは、室内楽作品のピアノ四重奏曲を、20世紀を代表する作曲家シェーンベルクが大編成のオーケストラ用に編曲した異色作。オーケストラの高度な機能性が要求される作品ですが、近年進化の著しい群響が存分に実力を発揮する好演となりました。

続いて7月の定期演奏会は14日(土)に開催されました。この日は予定されていた指揮の尾高忠明氏が体調不良のため急遽、群響名誉指揮者の高関健氏が登場しました。

前半のモーツァルトのピアノ協奏曲第23番では、高関氏の巧みなサポートのもと、数々のコンクール歴を持つ俊英、北村朋幹氏が美しく繊細な音色で観客を魅了しました。そして後半のブルックナーの交響曲第9番では、長年に渡り揺るぎない信頼関係を築き上げてきた高関&群響が、見事な集中力で圧巻の演奏を披露。前期シーズンを感動的に締めくくりました。



都響倶楽部通信

7期目の都響倶楽部

都響倶楽部代表 篠原 敏修

4月29日開催の都響倶楽部定時総会で、坪田副代表、山本副代表とともに、代表に再任されました。代表になって何年になりますかとよく聞かれるので、改めて調べてみたら丸6年経過していました。それ以前から副代表として倶楽部の運営に関わってきましたから、それを含めると10年になります。

私は会社をリタイアした後、大友直人とアラン・ギルバートが創設した国際教育音楽祭ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン(MMCJ)の事務局長として、活動してきました。昨年事務局長の席は後任に譲りましたが、今もほぼフルタイムでこの仕事をしています。就任当時、アランが都響を指揮するようになるとは思っていませんでした。不思議な縁です。都響ヴィオラの鈴木学さんがアランの盟友として、MMCJの講師をずっと続けておられることも、MMCJに関わって初めて知りました。鈴木さんのみならず、都響楽員の方々には賛助出演をはじめとして随分お世話になっています。

芸術、特に小さい時から接してきたクラシック音楽の世界に、単なる聴衆としてではなくもう少し深く関わりたいと思い始めたのは、定年が近づいてきた頃だったと思います。とにかく好きだというのが最大の理由ですが、もう少し理屈をいえば、芸術という人間が産み出した最も素晴らしいもののひとつ、ひとの生活を豊かにするために不可欠なもの、文化を支える大きな柱、これと共にあることが一市民として当然のことと思っているからでもあります。この感覚は、若いころからの欧州に対する強いあこがれと無縁ではなさそうです。欧州は人類の宝と呼べるような様々な芸術作品を産み出してきたし、(特に18世紀以降は)その背後に分厚い市民社会が存在していた、そして今でも存在していることがあらゆる場面で確認できま

す。自分は芸術を創造できませんが、芸術が生きたものとして存在し続けられるように何かしたいと思うわけです。演奏会に足を運ぶことは、そのひとつです。

さて都響倶楽部という、この稀有な存在に私は発足後にかかわることになりました(発足当時は日本にいなかった)。容易に想像できることですが、オーケストラという存在は非常にデリケートな生き物であり、運営に大きな金がかかるしエネルギーもスキルも要る。いろんな意味での舵取りは容易ではないでしょう。世界中のオーケストラが生き残るために、大変苦勞していることは誰でも知っています。都響にもいつどのような試練が降ってくるか判りません。大阪で起こったことは誰でも知っています。そういうなかで、都響を愛するひとたちを「見える化する」かたちで都響倶楽部が存在し続けることが、きっと役に立つと私は思っています。

総会のときにもお話しましたが、都響倶楽部の在り方はその時々で変わっていつしかるべきだと私は思っています。そ

のために議論を深めてコンセンサスを作ることが大切です。ずっと以前から何度も言ってきた通り、興味のあり方や意識、時間の余裕など様々な違いのあるひとたちを、都響を愛するという一点を共有して緩くまとめることが、私の都響倶楽部運営の基本中の基本です。多様性は宝です。メンバーの誰もが、都響倶楽部に参加して良かったと思えるようにしたいと思いますし、望むらくは、こ

のプラットフォーム上で自分なりの活動を展開してほしいと思います。二本の柱は、相変わらず、都響のために汗をかくことと、都響並びに都響倶楽部メンバー同士をつなぐことです。

都響倶楽部は都響の多くの聴衆とともに、今後とも活動していきたいと思います。





石川県立音楽堂
楽友会

楽友会だより

会報 第158号

発行者 石川県立音楽堂楽友会
代表 河内 芳人
発行日 2018.9.25
音楽堂楽友会…で検索してね〜♪

新シーズン開幕！ 土曜マチネ・コンサート「マイスター・シリーズ」 コンブリオ 今回のテーマは「Con brio!」

石川県音楽文化振興事業団 オーケストラ担当副部长 床坊 剛



いよいよOEKの新シーズンも開幕です！欧米のクラシック音楽界同様、OEKは9月から新たなコンサート・シリーズが始まります。皆さんは新定期公演のラインナップをどのよう感じていらっしゃるのか気になります。シリーズを通して「室内オーケストラ」を極めるOEKらしさを感じていただければ幸いです。

今回の「マイスター・シリーズ」は、テーマを「Con brio!」としました。イタリア語で「生き生き」と訳されます。ハイドンやベートーヴェンなど多くの作曲家は、楽譜の中で「Con brio」と演奏の指示をしています。この指示があると演奏家は気合が入り、聴衆もワクワクドキドキする瞬間なのではないかと感じましたか？

きつと楽友会の皆さんは、その体験が今でも心の中にあり、この体験を多くの人と共有したいと感じているのではないのでしょうか。そんな中、演奏中「ワクワクさせられる瞬間」を感じられるのも、もしかすると作曲家が「Con brio」と指示した瞬間なのかもしれません。様々な感情を呼び起こすクラシック音楽の中でも、多くの聴衆が「ワクワク感」を共有できる、そんな瞬間です。

OEKの演奏が皆様への人生の活力となるようにとの思いを込めたテーマです。あまりテーマに固執しながら聴いていた

「今日はいつもよりドキドキしたコンサートだったね」「明日からも元気にがんばろう」と感じていただけたら幸いです。

オーケストラ・アンサンブル金沢創立30周年に寄せて

Vol.5

創立時からこれまでOEKメンバーとしてずっと活躍されている楽員の方々に、当時の思い出話や印象深い演奏、30周年を迎えた心境などをお話しいただきます。

思い出深い楽曲は

コントラバス奏者
今野 淳



が近くなりヴィオラが練習に加わったときの安堵感は忘れることができません。

また、頻繁に演奏しているベートーヴェンの交響曲第7番も演目に取り上げる際に『室内オーケストラでやるべき曲目か？』侃々諤々話し合ったこともありまして、今では当然のレパートリーになっています。

プロコフィエフの古典交響曲は、最初の海外公演の演目にあつたので、練習も兼ねて半年以上前の音楽教室で毎回演奏していました。その後我々の代表するレパートリーとなり、確認はしていませんが、日本一多く演奏していると思います。

創立30年：沢山の出来事がありました。懐かしく思い出されることは演奏に関わる事が多いです。

1988年夏にオーケストラ

の活動が始まりました。当初は11月の旗揚げ公演の練習が中心で、演目はモーツァルトの交響曲39番、40番、41番の3曲です。しかし、この段階で、ヴィオラの団員はゼロでした。皆さんご存知かと思いますが、40番の出知は、チェロとコントラバスの「ブーン」という頭打ちとヴィオラの刻みで始まるのです。当然練習ではヴィオラの音はありませ

ん。チェロとコントラバスの音が2回鳴ると、ヴァイオリンのメロディーが入る。今では到底あり得ない状況でした。公演

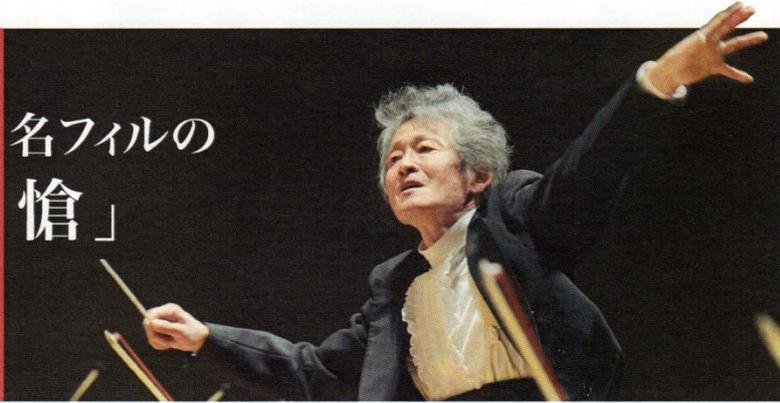
ソンジュン・キム
(OEKチェロ奏者)
チェロリサイタル
10月25日(木)
19:00開演

- 金沢市アートホール
- チケット 3,000円 (全席自由)



小泉和裕と名フィルの「悲愴」

ミロク(名フィル事務局)



役得とも呼ぶが、役目柄、年間50回を超える名フィル公演に足を運ぶ。そんなザ・音楽素人の独り言。今回は、名フィルと、我々がマエストロとの東京での熱演物語。

本年3月18日リニール間もないサントリーホール。集まる聴衆の視線の先におもむろに構える後ろ姿の男。一瞬の緊張と静寂。男のわずかなタクトの動きとともに、微かに、ほんの微かにコントラバスの音が流れた。チャイコフスキー作曲、交響曲第6番「短調」作品74「悲愴」。小泉和裕指揮による名フィル2017シーズンの最後を飾るシンフォニー。第1楽章アダージョアレグロ・ノン・トロツポ。曲はフアゴットによるお馴染みの主旋律が弦へと繋がっていく……♪

公演前半の演奏は小泉和裕がライブワークとしているベートーベン作品「エグモント」序曲。オケが創り出した緊迫した空間。密林のような勝利の弦の響き、管の調べ。ゆとりの弓裁きで聴衆を魅了したエンリコ・ティンドの伸びやかなチェロ。チャイコフスキー作曲、ロココ風の主題による変奏曲作品33。

小泉音楽監督と名フィルの2年目のシーズンはとても充実していた。名古屋の歌声とともに届けられた10月、オルフの「カルミナ・ブラーナ」。少年少女合唱団にもしっかりと向き合っていたマエストロ。新春を飾った1月、ストラヴィンスキー「春の祭典」。名フィルの演奏に、この曲が20世紀初頭にパリで初披露された時の観客のどよめきはこんな感じかなと想いを馳せた記憶がよみがえる……♪

東京公演「悲愴」に戻る。曲は第2楽章「優しさをもったアレグロ」の美しいワルツの調べから第3楽章のアレグロ・モルト・ヴィヴァーチェへ。力強く全身を揺さぶるマーチ。指揮者と名フィルの呼吸での全力疾走。演奏者の息遣いの楽章の終わりを告げるタクト。一斉に振り上げられる手。ストップする楽器達。客席から思わず拍手が漏れる。

何事も無かったかのような指揮者の静かな動きで第4楽章フィナーレへ。前の3楽章は、全手この楽章の「嘆きのアダージョ」のためにあったのか。一打静かな調べの中に、何かがと降りてきた。悪魔か天使か、諦めか救いか、もつと違った何かが。タクトがゆっくりと降りる。サントリーホールに満ちあふれる拍手。熱演！ それに添える会場の熱気。

音を文字で表すのは難しい。ましてや音楽も一期一会。客席を埋めるそれぞれの人が、それぞれの想いがある。そうした声を少しでもご紹介します。

名フィルは小泉和裕音楽監督の任期を当初の3年間から更に4年間延長し、2023年3月までとすることを発表した。監督は、楽団からの要望に「本来はオケと指揮者が長く付き合っていくという音色を出すか決めていくもの。じっくり仕事ができる」(中日新聞平成30年3月15日より抜粋)と快諾。

さてさて、マエストロと名フィル。これからどんな音色を宝箱から引出し聞かせてくれるかワクワクする。

こんな名フィルを来て、見て、確かめたい。

平成30年4月

20180317 東京公演感想抜粋

- 小泉さんの指揮する「悲愴」が聴きたくて来場しました。名フィルの演奏は初めて聴きました。エネルギーでマエストロとの息もピッタリで素晴らしいと感じました。やはり「悲愴」の第四楽章は号泣でした。30代女性
- 小泉さん指揮の「悲愴」を聴いたことがなかったので名フィルで聴けてよかったです。契約延長も歓迎。40代男性
- 小泉さん指揮の名フィル演奏のチャイコフスキー「悲愴」は期待以上の迫力の演奏に度肝を抜かれました。涙が止まりませんでした。ありがとうございました。また明日から生きていこうと思います。50代女性
- 郷里名古屋の高校生のとき、初めて生オーケストラを聴いたのがチャイコフスキーの五番で、当時は名古屋交響楽団(名響)でした。大学以降東京暮らしでオケはたくさん聞きましたが、久しぶりに名フィルを聴き、水準の高さに驚きました。選抜抜かれた精鋭削削という印象で、とりわけ弦の響きが美しく、管も名手揃いでした。これからも健闘を祈ります。80代男性

Cグループ（招待事業）

参加者：熊谷 哲（SPC）、◎山田 博子（名古屋）、細工 実（広島）
佐藤 高明（札幌）、○村山 英朗（札幌）、米森 宏子（札幌）
◇寒河江 潔（札幌）、佐藤 佐紀（札幌市）

各団体の招待事業の実態が話されました。

SPCでは、今まで仙フィルの演奏を聴いたことがない人を対象に年間3回ペアで6名招待しているとのこと。仙フィルの事務局との関係は良くなってきたとのこと。

名古屋は、名フィル事務局が独自に行っている中高生対象の招待事業の一部（毎月24名の座席の招待チケット）がファンクラブに任されていて、これを、ファン拡大に有効活用しているとのこと。

また、名フィルファンクラブ主催の演奏会に三井住友から100名ほどの招待チケットを援助してもらったり、名フィル団員が入って演奏会では、演奏料の半分を補助してもらったりしているとのこと。その他、ファンクラブに入会した場合、入会時の名フィル定期演奏会チケットの半額を事務局に負担してもらっているとのこと。

札幌からは、「中学生招待事業」を紹介しました。

Dグループ（交流会や親睦会）

参加者：◎佐藤 佳世（SPC）、栄浪 章文（山響）、里吉名知夫（群響）
川端習太郎（札幌）、佐々木 保（札幌）、○朽木 尚明（札幌）
横山 章子（札幌）、◇及川 恵（札幌）

山形では、以前会員と楽員とで「芋煮会」を行っていたが、今は中止している。楽員との距離があまり近すぎるのもどうか。また、演奏会の後、会場に残ってもらい、指揮者、ソリストのお話をお聞きし、サイン入り色紙を抽選で渡すということも行っている。

交流会とは関係ないことですが、山響は、学校まで出向いて演奏活動を行っていて、バスはクラウドファンディングですぐ金額達成して購入できたとのこと。

仙フィルも、交流会とは違う話題ですが、「仙クラ」は、1000円で素晴らしい演奏が聴けて完売状態。また、2000円の国際コンクールのチケットも完売するが、仙フィルの演奏会には来てくれない。チケットが高いと思うらしい。

Eグループ（会員募集や宣伝活動）

参加者：成毛 祥代（SPC）、◎佐藤 彰（山響）、河内 芳人（金沢9）
佐藤 幸一（広響）、今井 康夫（札幌）、○村岡 範男（札幌）

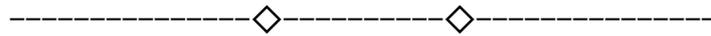
◇橋 幸子（札幌）、島田千津子（札幌）、高木 誠一（札幌市）

特典などを設けても、入会にまではいかない場合が多く、高齢化の問題もある。
事務局に存在を認めてもらうことも大事。

楽員さんとの交流があって楽しいが、チケットを買ってと言われる。

楽員さんが、積極的に会員さんと触れ合ってくれれば、会員も増えると思う。

宣伝活動は、口コミが一番。印刷物には経費がかかる。



Fグループ（楽団支援）

参加者：高坂 知節（SPC）、加藤 聡（山響）、◎棚池 康信（金沢）
森戸 健（名古屋）、鈴木 美保（札幌）、◇辻 幸子（札幌）
○武藤 義典（札幌）、武田 律子（札幌）、山口 斌（札幌）

山響からは、山形交響楽団が演奏活動を学校等で行う楽員の移動用バスが老朽化してきたため更新を検討、その購入資金をクラウドファンディングで調達した。山響ファンクラブからも10万円別途寄付した（写真参照）。



Supported by

飯森範親 山響ファンクラブ



NPO法人山形の音楽活動を応援する会・Mプロジェクト
くろき脳神経クリニック（酒田）

菅井剛史

ご寄付いただいた皆さん

クラウドファンディングにご協力いただいた皆さん



石川からは、お金はないが体力で助ける活動が紹介されました。一般会員への郵送のラベル貼り、楽友会事業として「ボランティアコンサート」で少年院や病院、児童支援施設訪問、楽員の個人リサイタルのチケット販売協力、会場のお手伝い、ロビーコンサートで地

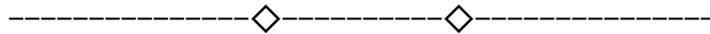
元の音楽家の支援など、多彩な活動を行っています。

仙フィルは、楽員からの依頼に対し、チラシ配りやネットワークを活用しての宣伝で支援している。今後の活動として、地元の経済者（ロータリークラブ、ライオンズクラブ、若手経営者）との連携を強めていき、「仙フィルを楽しむ会」の発足や、若い人を取り込むことなどを計画している。

札幌響くらは、毎年50万円の楽譜支援を行っているが、会費からだけでは賅えず、追加支援に頼っている現状である。



各団体の詳しい活動状況は、議案書の団体活動報告や個別の質問などを参照してください。



- (SPC) = 仙台フィルハーモニークラブ (宮城県仙台市)
- (山響) = 山響ファンクラブ (山形県山形市)
- (群響) = 群響ファンズ (群馬県高崎市)
- (都響) = 都響倶楽部 (東京都江東区)
- (金沢) = 石川県立音楽堂楽友会 (石川県金沢市)
- (名古屋) = 名フィル・ファンクラブ (愛知県名古屋市)
- (札幌) = 札幌響くらは (北海道札幌市)
- (札幌市) = 一般市民 (北海道札幌市)
- (九響) = 九響倶楽部 (福岡県福岡市)、欠席
- (熊本) = NPO法人 オーケストラ創造 (熊本県熊本市)、欠席